

本授業の主張点

本時では、めあて2で創っていく表現の仕方に自分のイメージやめあて1での表現が生かせていたかどうかを、「ミランパでショー」で考え、グループの踊りを意欲的によいものにしていこうとする子どもたちの姿をめざします。

1 単元名 6年2組鯨っ子物語2014 (F 表現運動 ア 表現)

2 単元の目標

6年生になって、心に残っている出来事のイメージを動きに表して、小作品にして楽しむことができる。

3 評価規準「学力デザイン レベル3より」

- ① 6年生での出来事を題材にした表現に楽しく取り組み、進んで運動しようとする。[態度]
- ② イメージに合う表現の仕方を工夫して、小作品にしようとしている。[思考・判断]
- ③ イメージを広げ、動きを組み合わせたり繰り返したりして表現することができる。[技能]

4 運動と子ども

(1) 運動の楽しみ方

題材の特徴を捉えてイメージを広げ、その出来事に没頭して表現することが楽しい運動である。

(2) 子どもの実態

- ・ 体育の学びがとても好き、あるいは好きだと答えた子どもは35名で、その理由は「体を動かすことが楽しい・好き(28名)」「できるが増えるから(23名)」「カバーしたりしてもらったりするから(6名)」などであった(複数回答)。
- ・ これまでの体育の学びで、表現に取り組んだ経験はあるものの、21名の子どもが嫌いだと答えている。その多くが「どう踊ったらよいかわからない」「恥ずかしい」と答えた。
- ・ 表現運動でどんなテーマについて踊ってみたいか尋ねたところ、「運動会のこと」「楽しかったこと」「優しくしてもらったときのこと」「受検に向けた取組」などであった。
- ・ 全員が自分で活動のめあてをもつことができる。そのめあては単元当初は情意的なめあてが多いが、徐々に具体的だったり課題意識をもったりしためあてになる子どもがほとんどである。
- ・ 活動を進める際、互いに協力して活動しようとする意識が高い。困ったことがあれば、「友だちに尋ねる(37名)」「先生に尋ねる(21名)」「自分で考える(5名)」「学習ノートを見る(12名)」と答えている(複数回答)。
- ・ これまでの授業において、デジタルカメラやタブレット端末を使用した活動を随時行っており、ほとんどの子どもが使い慣れている。
- ・ デジタルカメラなどで撮影した自分の姿を見ることについて、「はずかしい(11名)」「いやだ(2名)」というように感じている子どもがいる。一方、「次に何をしようか考えることができる(16名)」「頑張っているところがよくわかる(13名)」というように動きの向上に着目している子どももいる。「嬉しい」「楽しい」といった自分の姿から肯定的な受け止めをしている子どもは8名であった(複数回答)。

5 教師の授業への意図 ※太字ゴシックは視点に関わる部分(=「ミランパでショー」の具体的な場面)

- ・ 「今感じたことを踊って楽しもう」を合言葉に活動に取り組む。その際、みんなに見られることが恥ずかしさにつながっている子どもがいるため、その子なりの表現を認めていく雰囲気を作っていく。また、グループは男女別・希望によるグループにして、安心して取り組めるようにする。
- ・ 「6年生の思い出」という題材は、子どもたちの成長を実感させることができ、イメージがわかりやすいと考えられる。具体的な動きのイメージがもてるように、総合的な学習の時間で取り組んだ内容を生かしながら、教師も一緒に表現の仕方を考えていく。
- ・ 体を動かして楽しむ活動に抵抗なく入っていけるように、体ジャンケンやイメージカードを使った表現遊びを導入で取り入れる。

- めあて1では、2～3人の組で互いに動きを探る場を設定する。めあて2では、グループで表現したものを持ち寄り、話をつくりながら表現し、動きの広がりを作っていく場を設定する。
- めあて1では、イメージを広げ即興で踊ることができるように、カードを用意して子どもたちに提示する。また、踊っている様子をデジタルカメラやタブレットで撮影し、後半のグループ活動につなげられるようにする。教師は、精一杯踊っている子どもを撮影し、ふり返りの際に紹介する。
- めあて2では、事前に用意したお話カードをもとにグループで表現していく。また、グループでの表現を撮影する場を設け、その様子を「ミランバでショー」の材料にしていく。遅延再生装置で見られるコーナーも併設し、その場で表現の仕方について確認できるようにもする。
- 「ミランバでショー」では、前半と後半で見られる表現の仕方の関連を探ることができるように教師が言葉を投げかけ、観点をもとにイメージ通りに動きが生かしているか考える時間を設ける。そのことにより、ふり返りの記述につなげて、豊かな即興表現につなげていきたい。
- 学習資料として動きの観点を提示し、多様な動きにつなげられるようにする。
- 表現の仕方の工夫として、「4つのくずし（空間のくずし、リズムのくずし、体のくずし、相手との関係のくずし）」を観点にしなが、活動中にその様相が見られたときは積極的に紹介していく。また、表現する際には「芝居＝四倍」を意識するように声をかけ、「4つのくずし」や大きな動きを中学校における創作ダンス指導につなげていきたい。

6 学習の道すじ

1	2	3	4	5 (本時)	6	7
はじめ	体ジャンケン・表現遊び					
	めあて1 心に残っていることを自分なりの動きにして楽しもう					
イメージカードづくり	めあて2 6年生での思い出を小作品にして楽しもう					発表会
	ミランバでショー					
ふり返り						まとめ

7 学習と指導(全7時間)

※ は視点に関わる部分

	学習活動 (○)	指導上の留意点 (◎)	評価
1	○ 学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと進め方 学習の約束 学習ノートの使い方 表現運動の楽しみ方 ○ 総合的な学習の時間で取り扱った「学校紹介」と関連させて、これまでの生活で心に残っていることを、言葉や絵で表す。 ○ 教師が提示されたカードを、即興で表現する。 ○ 活動をふり返る。	◎ できるようになりたいと感じていることややってみたいことを紹介し、その思いが達成できるよう意識付けする。 ◎ 学習ノートを提示し、めあての持ち方やふり返りの記述について説明する。また、気持ちよく活動できるよう、約束を確認する。 ◎ 子どもたちが書いた作文や活動の写真をいくつか紹介し、登場してきた人物やその様子を想起できるようにする。イメージしたことは、自由にイメージカードに記入するよう声をかける。 ◎ 教師が提示したカードを自由に表現するよう促す。 ◎ 今後の活動への期待が膨らむように、子どもたちから見られた動きや関わり方を紹介する。	① (観察) ① (ノート)
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">めあて1 心に残っていることを自分なりの動きにして楽しもう</div> ○ 体ジャンケン・表現遊びをする。 ○ めあてをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 学習ノートに記述する。 ○ めあて1では、イメージカード	◎ 体と心をはぐせるように、友だちと一緒にやって大きく体を動かすように声をかける。 ◎ めあて1に関わる内容であれば白帽子、めあて2に関わる内容であれば紺帽子にするよう声をかける。 ◎ 自分なりに「6年生の活動」から思い出すこ	

<p>ドを自分なりの動きで表して楽しむ。</p> <p>○ 友だちと一緒にイメージを動きで表して楽しむ。 〈取り組みの例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピラミッドで痛いイメージを動きで表す。 ・ 一年生を迎えて、楽しいイメージを動きで表す。 ・ テストの時のドキドキするイメージを動きで表す。 <p>○ 即興的に表現したものができれば、それを撮影する。</p> <p>【評価】めあて1 イメージカードをもとに、友だちと動きを探りながら楽しむことができたか。</p>	<p>とをカードにし（イメージカード）、互いに紹介しながら動きを考えていくように声をかける。</p> <p>◎ 友だちが考えたイメージカードと一緒に即興で表現し、イメージと動きが合っているか確認するように声をかける。</p> <p>◎ 動きに関連して、その時どんな気持ちになるのかを想像させ、その気持ちを表現の仕方に生かすよう助言する。</p> <p>◎ 工夫した動きがあれば「ミランバでショー」の材料として撮影しておく。</p> <p>◎ 活動においてつまずきが見られる子どもには、一緒になって表現の仕方を考えたり、友だちの動きを真似させたりして動くように声をかける。</p>	<p>①② (観察)</p> <p>↓</p>
<p>めあて2 6年生での思い出を小作品にして楽しもう</p>		
<p>○ 自分が考えた動きを紹介したり、友だちの動きを見たりしながら、話をつないで表現する。 〈取り組みの例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会での応援合戦にまつわる話を小作品にする。 ・ 実力テストにまつわる話を小作品にする。 <p>○ 小作品が完成したら、撮影したり遅延再生装置で表現の仕方を確認したりする。</p>	<p>◎ 各自が考えた動きやイメージカードを「はじめ」「なか」「おわり」に並べ、それに沿って表現するように声をかける。</p> <p>◎ 「はじめ」「なか」「おわり」それぞれにまとまりの部分ができてきたか声をかけ、一部でも完成したと確認できたら、イメージ通りに動きを表現できたか確かめる材料にしていくために遅延再生装置コーナーで表現の仕方を見る。</p> <p>◎ 後半の最後に、踊りの撮影を必ず行うように声をかけ、「ミランバでショー」の材料にでききるようにする。</p>	<p>②③ (観察)</p> <p>↓</p>
<p>○ 「ミランバでショー」でグループでの踊りを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあて1の活動とめあて2で見られる表現の仕方を比べて、イメージと動きが繋がったか考える。 ・ 友だちと、動きやイメージについて交流する。 <p>○ 活動をふり返る。</p>	<p>◎ イメージと表現の仕方が合っていたかどうか、自分の動きがどのように変わったかを確認られるように、めあて1とめあて2で活動している映像を見る時間を設ける。</p> <p>◎ 友だちとイメージや動きについて交流し、グループの表現の仕方が吟味できるようにする。</p> <p>◎ 気付いたことがあれば、学習ノートに記入させ、ふり返りに生かせるようにする。</p> <p>◎ 学習ノートに気づいたことを書き、次の活動につながる記述を紹介する。</p> <p>◎ ポイント（自分なりの表現をグループの表現に生かされたか、自分のイメージと友だちの表現で合うものがなかったか、楽しく活動できたか）についてふり返りの欄に記入するよう促す。</p>	<p>①② (観察)</p> <p>↓</p>
<p>【評価】めあて2 考えた動きを生かして、題材の様子を表現して楽しむことができたか。</p>		
<p>○ グループで考えた「6年2組 鯨っ子物語2014」の小作品を紹介する。</p> <p>○ 本時までの活動をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の内容 ・ できるようになったこと 	<p>◎ 発表会を設定し、表現する楽しさと見る楽しさを味わえるようにする。また、自分たちの小作品を後日自分たちで見られるように、撮影をしておく。</p> <p>◎ 自己の高まった姿を実感できるように、今回の表現運動でできたことを全体で紹介する。</p> <p>◎ 創作ダンスを紹介し、中学校での学びに対する期待感ももてるようにする。</p>	<p>① (観察) (発言)</p> <p>↓</p>

7

8 本時の学習と指導

(1) 本時のねらい (本時 5 / 7)

動きの観点を意識し、イメージに合う表現の仕方を工夫しながら楽しむことができる。

(2) 展開

※ は視点に関わる部分

	学 習 活 動	教師の働きかけ (○) 及び形成的評価 (◆)
はじめ	1 表現遊びをする。 2 めあてをもち、今日のテーマを知る。	○ ゆっくり、大きく体を動かすように声をかける。 ○ 自分に合っためあてをもてるように、前時のふり返りを大切にすることを確認する。また、活動がより充実するように活動のテーマを提示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「○○な感じ」に合う表現の仕方をグループでさぐって、鯨っ子物語を楽しもう。</div>	
なか	3 活動する。 【めあて1の活動】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">心に残っていることを自分なりの動きにして楽しもう</div> 〈活動の例〉 ◇ 「運動会で優勝したこと」から、飛び跳ねて喜ぶ感じを動きに表す。 ◇ 動きに表してみても、どんな動きの観点があったか、学習カードで確認する。	○ 新しいイメージカードがあればそれをテーマにして即興的に表現し、同時に友だちがどんな表現をしているのかを観察するように声をかける。 ○ これまでの動きを広げていきたいと考えている場合には、イメージカードにどんな感じを出していきたいか記述させ、動きとイメージを探れるようにする。 ○ 表現の工夫やその良さを共有できるように、A 児の表現の仕方を観察しながら、特徴的な動きが見いだせたらデジカメで撮影する。
か	◆ 動きの観点を生かしながら、イメージに合わせて精一杯動きに表しているか。(観察) A 4つのくずしのいずれかを意識しながら、イメージに合わせて精一杯動きに表している。 B 動きの観点を意識しながら、イメージに合わせて精一杯動きに表している。 → これまでの表現の仕方に見られた4つのくずしをヒントにしながらか活動するようにアドバイスする。 C イメージはもっているが、どのように表現していいのかわからない。 → 教師と一緒に表現の仕方について考え、ヒントをつかめるようにする。	
	【めあて2の活動】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">6年生での思い出を小作品にして楽しもう</div> 〈活動の例〉 ◇ ピラミッドを作るときの一連の様子や思いを動きで表す。 ◇ リレーの順番を待っているときから、ゴールしてほっとする様子を動きで表す。 ◇ 表現の仕方を遅延再生装置で確認する。	○ 「ミランバでショー」に生かせるように、自分たちの表現の仕方を撮影するよう促す。 ○ めあて1で動きに表したものを、グループでつないで小作品にするよう声をかける。 ○ 体を精一杯動かしている子を称賛する。 ○ 動きのイメージはあるものの、友だちとは違う動きで表している時は声をかけ、グループで表したい表現の仕方を教師と一緒に話し合うようにする。 ○ グループでの踊りができたところまでを、タブレット端末で撮影するよう声をかけ、「ミランバでショー」の材料に生かせるようにする。
	【「ミランバでショー」】 [連結化] ・ 自分達の踊りを見て、イメージと表現の仕方がつながったかを考える。 ・ 友だちと表現の仕方やイメージについて交流する。	○ めあて1と2の活動で撮影した動画を見比べて、自分のイメージと表現の仕方がつながっているか、表現の仕方がグループの中に生かしているかを確認できるよう声をかける。 ○ 友だちの動きについて互いに気づきを出させ、グループで表したい表現の仕方を確認するようにする。 ○ 表現の仕方の変化について考えられるよう、教師が観点をいくつか示す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評価 「○○な感じ」に合う表現の仕方を工夫して楽しめたか。</div>	
まとめ	4 学習をふり返る。 活動をふり返り、嬉しかったことや楽しかったことを共有する。	○ 学習ノートに、活動のふり返りと自己評価を記述させ、次時の活動でどんなことができるようになりたいか 【内面化】 を書いている子どもを全体で紹介する。